

# PSS REPORT 2013



Precision System Science Co., Ltd.

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

## ▶ トップメッセージ

TOP MESSAGE

株主の皆様におかれましては、平素より当社の事業につきまして格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。PSSの事業進捗について報告させていただきます。



プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
代表取締役社長

日島 秀二

### PSSの提案する診断システム

- 全自動遺伝子診断装置 geneLEAD®



### 更に詳しい情報は?

- PSSWebサイトTOPページ Informationより(2013年2月8日) PSSの開発製品geneLEAD®の紹介動画が、日本の産業技術に特化した映像ニュース配信会社 DigInfo TVにて案内されました。

## ■事業の成長による社会貢献とは?

バイオ（体外の遺伝子・タンパク質等）診断システムの提供を通じて

事業目的は、バイオ診断システムの提供を通じて、世の中の多くの人々に快適な生活を送って頂くご支援です。そのため事業領域において、強みである「自動化システム技術」を活かす事、すなわち「バイオテクノロジー」と日本企業の得意とする「ものづくり」を融合して、事業の成長による社会貢献をはたします。

PSSの技術コンセプトは、「シンプル、コンパクト、メンテナンスフリー」の自動化システムです。このコンセプトが、社会に受け入れられたDNA自動抽出装置は、累計1万台以上を世界的な企業を通じてOEM供給しました。現在では研究分野だけではなく、感染症やDNA鑑定等の臨床の現場でも利用されるようになりました。

今後PSSが事業の成長により社会貢献できるのは、この実績と経験を活かした応用展開です。すなわちDNA自動抽出技術（Magtration®）を発展させたバイオ診断システム（全自動化装置と一体化した検査試薬）の製品提供を通じて、世界のより多くの人々に、バイオ診断情報の有効活用による社会貢献に関われる事だと考えています。

## ■業績について

第28期（H25/6）第2Q連結累計期間業績と通期の業績見通しについて

⇒参照 連結財務ハイライト

第28期第2Q業績は、ロシユグループと次世代シーケンサー（網羅的遺伝子解析）に関する開発契約が締結等の増収要因があったものの、第1Qのコスト増要因を賄う事ができず、期初予想通りの売上計上するも利益予想は達成できませんでした。

第3Q以降の期間損益は黒字化の見通しで、当初予想の売上高は計上できる事を見込むものの、第1Qにて計上された赤字額を吸収するまでには至らない見通しです。

第28期通期の業績予想は赤字見通しに変更しましたが、PSSグループの経営目標としては、すでに契約済みの案件進捗に注力するだけでなく、更なる新規案件の獲得にも努める事により、当期の決算黒字化に向けて努力していく所存であります。

## ■最後に

先進国は日本を先頭にして歴史上例のない少子高齢化社会の到来（中長期的には新興国も同様）により、医療費、年金、福祉等の社会コストが、増大し続ける見込みです。その対策として、費用対効果の高い医療診断システムが社会的ニーズとなっている事から、事業領域とするバイオ診断の利用分野は、近い将来急拡大していくものと考えています。PSSの技術を有効に利用できる道筋を把握し、具体的かつ斬新な戦略を実行して、株主・投資家の皆様のご期待に応える成果を着実にお見せできるよう事業を推進してまいります。

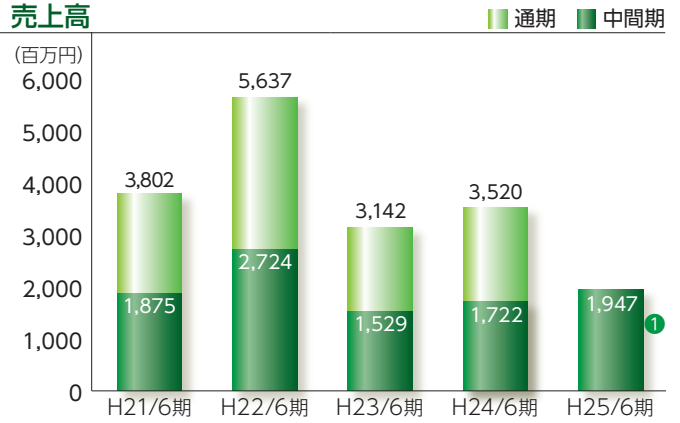
引き続きご支援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

第28期(H25/6)第2Q連結累計期間業績について

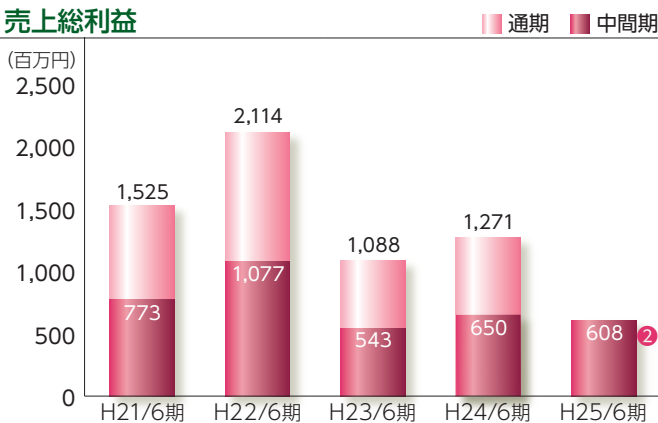
期初に定めた利益予想は達成できませんでした。

ロシユグループと開発契約締結等の増収要因があり、売上予想は期初予想通りでした。(①前年同期比13.0%増)しかしながら第1Qの減益要因(1.キアゲングループと三菱化学メディエンス(株)向け販売が低調 2.新規開発製品のコスト増 3.円高推移)により期初予想の売上総利益を達成できなかった事(②前年同期比6.3%減)と製造会社NPSの子会社化に伴う販管費の増加(③前年同期比4.5%増)により期初の利益予想は達成できず、営業損失121百万円(前年同期は営業損失49百万円)を計上しました。経常損失86百万円(前年同期は経常損失79百万円)、四半期純損失154百万円(前年同期は四半期純損失95百万円)となりました。

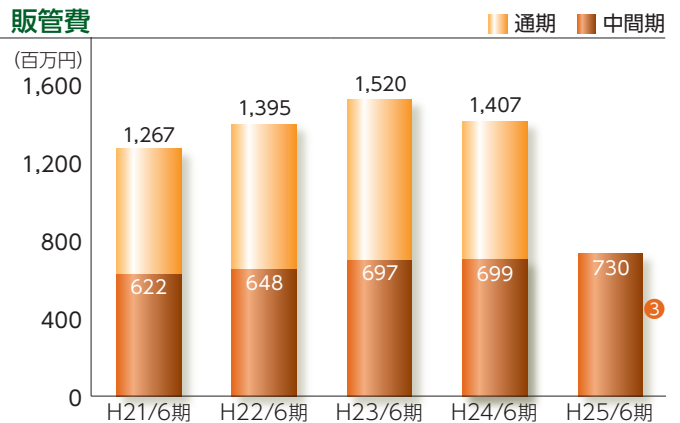
売上高



売上総利益

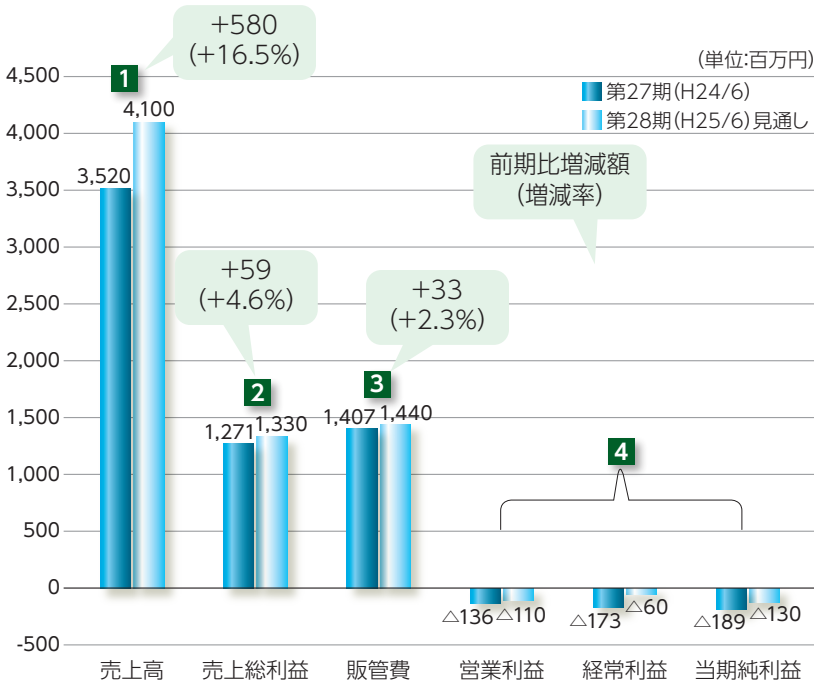


販管費



第28期(H25/6)連結業績見通しについて

●第27期(H24/6)業績比



◆第28期(見通し)は下記要因を鑑みて、第27期業績に対して改善見込みです。(なお、為替の見通しは、1ユーロ=115円、1ドル=85円にて算定しております。)

1 ▶売上拡大: ①ロシユグループ向け販売拡大 ②第3Q以降はキアゲングループと三菱化学メディエンス(株)向け販売が回復基調 ③米国アイビス社やイタリアのディアソリン社などの新規OEM案件の開発進捗及び量産機の市場投入 ④新たに子会社となった製造委託先であるエヌピーエス(株)の外部売上(当社グループ向け販売を除く)の計上を見込んでいます。

2 ▶売上総利益改善: 上記1売上の拡大基調と、エヌピーエス(株)を中心とした製造委託先との協力のもと継続的な製造原価の改善に努めます。

3 ▶販管費の拡大抑制: エヌピーエス(株)の子会社化に伴い、全体的には増加する見通しですが、研究開発費の抑制を中心に削減努力を継続致します。

4 ▶最終損益赤字の見込み: 第3Q以降の期間損益は黒字化の見通しであり、当初予想の売上高は計上できる事を見込むものの、第1Qにて計上された赤字額を吸収するまでには至らない見通しです。

更に詳しい内容のPSSHPコンテンツ

TOPページ>投資家の方へ



## ■ 事業の進捗について

### PSS、Rocheと次世代シーケンサー向け全自動前処理装置の開発契約を締結(2012年12月21日)

Rocheの次世代シーケンサー向けに全自動エマルジョンPCR装置の開発、製造に関する独占契約を締結いたしました。この契約はRocheの次世代シーケンサーであるGS Junior及びGS FLX+また、Rocheが現在開発中の次世代シーケンサーをサポートする事を目的としています。

シーケンサー解析を行うにあたって必要な前処理工程は、時間のかかる複雑な手作業に依存する状況にあります。今回、開発される新装置は、エマルジョンPCRの全処理工程の自動化を実現し、シーケンサー前処理をシンプルなものにする事で、人手を要する作業時間をこれまでの数時間から数分間へと大きく軽減するものです。

関連記事が業界誌Drug Discovery Newsにて紹介されました。

タイトルは「Shifting from manual to automatic」にて、今回のPSS、Rocheとの開発契約締結に関して、その意義と展望等について取材を受けたものです。右記URLから記事を開覧できます。 <http://www.drugdiscoverynews.com/index.php?newsarticle=7008>

### ヒトES/iPS細胞などのエピゲノム\*自動解析システムと方法を開発、実用化へ(2013年2月5日)

PSSの子会社ジェネティン株式会社より、京都大学との共同研究成果について発表がありました。詳細内容はプレスリリース、または京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS=アイセムス)WEBサイトにてご覧になる事ができます。なお、本共同開発で利用されたエピゲノム自動解析システムは、ジェネティン株式会社より、3月から価格650万円で国内販売を開始する予定です。

#### iPS細胞との関係は?

iPS細胞は、あらゆる細胞に分化できる能力を持ち、再生医療分野での実用化が期待されています。iPS細胞は神経細胞、肝臓細胞等、その機能や外観が全く異なる細胞へと分化できますが、その正常な分化にはエピゲノムの制御が重要であると考えられています。そのため、エピゲノムの変化を調べる事は、がんの発症、細胞の老化等のメカニズムの理解につながります。



エピゲノム\*：後天的な遺伝子の働きの変化に関する分野。iPS細胞、がん、老化、脳機能等多くの領域で応用されている。

PSSの製品が社会貢献できるのは？  
エピゲノム情報を評価するための複雑な前処理工程を自動化します。



PSSの対応製品は？  
●多機能前処理装置 SX-8G Compact

## ■ メディアに取り上げられたPSS

### 企業情報紹介サイト「きぎよまな」にPSSの事業内容が掲載されました。(2012年12月28日)

PSSの事業内容について、IR担当者がインタビューを受けました。(インタビューで受けた質問)

Q1:PSSのビジネスは何ですか?わかりやすく教えてください。

Q2:PSSの強み、他社との違いはどこにあるのでしょうか?

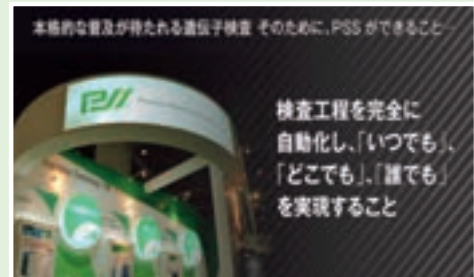
Q3:事業環境とその対応は? また、それに対応する成長戦略は?

- (1) 遺伝子検査における課題を解決(前処理工程の自動化)
- (2) POCT市場をターゲットにしたオールインワン自動解析装置の開発
- (3) 消耗品ビジネスへの進出

Q4:個人投資家の皆様へのメッセージをお願いいたします。

インタビューの内容はこちらから

- PSSWebサイトTOPページ Informationより(2012年12月28日)



## ■ PSSのCSR活動

### PSSの知的財産戦略について講演を行いました。(2013年2月14日)

(講演の概要)

2013年2月9日(土)大阪 日本弁理士会近畿支部主催

「特許戦略とモノづくりバイオ企業 ー世界企業と取引成功の秘訣ー」

代表取締役田島秀二よりPSSの知的財産戦略について講演を行いました。

講演当日は、PSSの実際の特許とOEM取引先を挙げた、具体的事例に基づく話をさせて頂いた事から、実務を担う弁理士の方々と国際特許出願や対抗策等について活発な質疑応答を行う事ができました。特に、会社のVisionを基にして、ものづくりバイオ企業の特徴を活かした特許技術の発想と、世界的な企業と取引を成功するために、システムを多目的化できた製品開発については、動画とプレスリリースを使った具体例を用いた説明を行った事もあり、大変興味を持って頂きました。

講演で利用した資料、HPコンテンツはこちらから

- PSSWebサイトTOPページ Informationより(2013年2月14日)

## ■ 個人投資家説明会ご案内

東京開催	
開催日時	2013年4月20日(土) 13:00~16:30(予定)*1
会場	KDDIホール 東京都千代田区大手町1-8-1 KDDI大手町ビル2F 03-3243-9301
主催者	株式会社インベストメントブリッジ <a href="http://www.bridge-salon.jp">http://www.bridge-salon.jp</a> (ブリッジサロン*2:合同説明会)
内容	代表取締役社長田島秀二より、直近の業績概況及び事業進捗について説明申し上げます。
ご参加申込方法	主催者の株式会社インベストメントブリッジへ直接お問い合わせ下さい。 お問い合わせの方法として、①電話②FAX
お問い合わせ先	株式会社インベストメントブリッジ ブリッジサロン参加希望 ①電話:03-5842-5765②FAX:03-5842-5767

\*1記載しております開催時間につきましては、予定であるため変更される可能性があります。なお、PSSのHPからも、ご案内させていただきます。

\*2ブリッジサロンは、(株)インベストメントブリッジが主催するIR会社説明会です。

### 説明会会場に行けない方は?

PSSのHPからも説明会動画を、  
閲覧できるようにする予定です。



## 会社概要 (H24/12末現在)

CORPORATE PROFILE

商号：プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
(英文社名)：Precision System Science Co., Ltd.  
設立年月日：1985年7月17日

役員：代表取締役社長 田島 秀二  
常務取締役 秋本 淳  
取締役 小幡 公道  
取締役 長岡 信夫  
取締役 池田 秀雄  
監査役 高橋 達雄  
監査役 荻原 大輔  
監査役 平山 伸之  
(注) 荻原大輔氏及び平山伸之氏は、会社法第2条第16号で定める社外監査役です。

資本金：2,217百万円

従業員数：149名

(注) 従業員数は就業人員です。(派遣社員、パート等を含まない)

連結子会社：Precision System Science USA, Inc. (米国)  
Precision System Science Europe GmbH (ドイツ)  
ユニバーサル・バイオ・リサーチ(株) (千葉県松戸市)  
PSSキャピタル(株) (千葉県松戸市)  
バイオコンテンツ投資事業有限責任組合 (千葉県松戸市)  
ジェネティン(株) (東京都千代田区)  
PaGE Science(株) (東京都小金井市)  
エヌピーエス(株) (秋田県大館市)

事業内容：バイオ診断システムインテグレーター  
体外の遺伝子・タンパク質解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化装置、その他理化学機器、ソフトウェア等開発及び製造販売、並びに自動化装置に使用される試薬及びプラスチック消耗品製造販売等

## 株式の状況

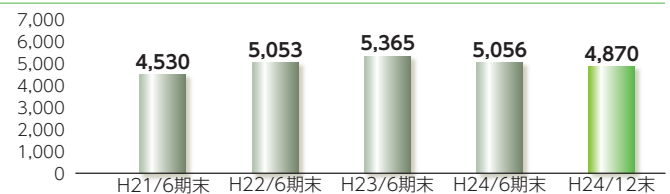
STOCK INFORMATION

会社が発行する株式の総数 342,400株  
発行済株式の総数 91,260株  
株主数 4,870名

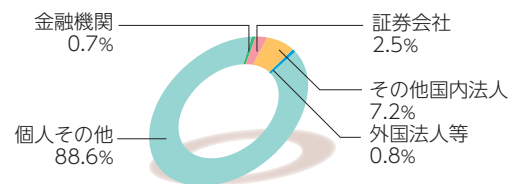
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
田島 秀二	22,746	24.9
有限会社ユニテック	6,000	6.5
高山 茂	1,346	1.4
中武 敏子	1,169	1.2
高橋 計行	1,074	1.1
井上 功	1,053	1.1
亀山 稔	915	1.0
小幡 公道	872	0.9
松井証券	833	0.9
プレジジョン・システム・サイエンス従業員持株会	780	0.8

株主数推移(名)



所有者別保有株式数



## 株主メモ

SHAREHOLDER INFORMATION

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
剰余金の 配当基準日	期末配当金 毎年6月30日 中間配当金 毎年12月31日
定時株主総会	毎年9月
単元株式数	1株
株主名簿管理人	事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 ( <a href="http://www.pss.co.jp">http://www.pss.co.jp</a> ) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載します。

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合*
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		・みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 ・みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払・支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用下さい。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 *株券電子化実施(2009年1月5日)に際し、証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託しなかった場合

## PSS IRメール配信のご案内

PSSでは、個人株主・投資家の皆様とのコミュニケーションをはかるため、Eメール配信を行っております。プレスリリースや会社説明会のご案内等を、オンタイムでお知らせしております。

TOPページ>Q&Aお問い合わせ>PSSIRクラブからメールアドレス登録ができますので、是非ご登録下さい。

(将来の見通しに関する注意事項)

本中間事業報告書では、当社グループの将来についての計画・戦略・業績に関する予測と見通しが含まれています。実際の業績は、述べられている見通しと異なる可能性があることをご承知おき下さい。

UD  
FONT

VEGETABLE  
OIL INK

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 業務本部 IR・社長室

〒271-0064 千葉県松戸市上本郷88 ▶TEL: 047-303-4800 ▶FAX: 047-303-4810 ▶Eメール: ir@pss.co.jp